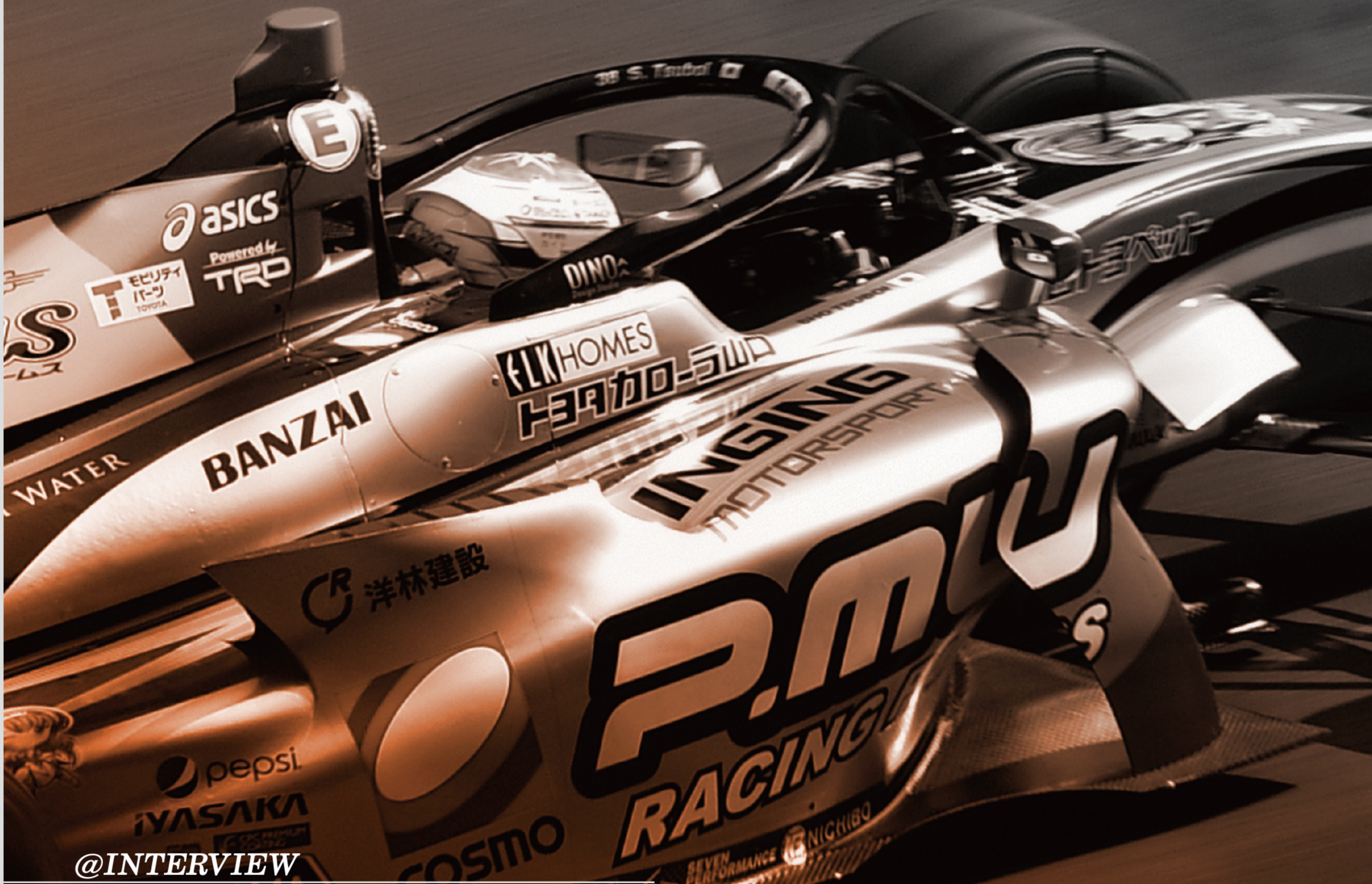


# 灼熱の道程

Today's Race Rd,6

Fuji Speedway  
7.16 SAT / 17 SUN



@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

荒れるレースに  
なると思っていた

Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

Yuji TACHIKAWA

監督 立川 祐路



# NEWS PAPER

Take Free!

SUPER FORMULA 2022

PMU/CERUMO-INGING Race Report

@Race Archive

Rd.5 SPORTSLAND SUGO レースアーカイブ Round.5 スポーツランド菅生 予選 6月18日(土) 天候:晴れ 路面:ドライ

開始早々の赤旗!?

オートポリスで開催された第4戦では、開幕から苦戦を続けていた阪口晴南が状況打開の手ごたえを得て8位入賞。一方の坪井翔は、速さはみせつつも流れをつかむことができず、接触など悔しいレースとなっていたが、阪口は掴みはじめた流れを加速させ、坪井は悪い流れを打破すべく、宮城県のスポートランド SUGO で開催される第5戦に臨んだ。激しいアップダウン、ランオフエリアも少ない難攻不落のコース。オーバーテイクポイントも少なく、予選順位が重要となることから、P.MU/CERUMO・INGING は予選から上位進出を目指し6月18日(土)の予選日に臨んだ。

やや風があるものの、気温 28 度 / 路面温度 44 度というコンディションで迎えた午後2時からの公式予選。決勝レースに向けた好位置を確保するためにも、まずは2台揃って Q2 に進出することが目標だ。まずスタートした Q1 の A 組には、阪口が出た。ユーズドタイヤを履き、まずは一度コースインした阪口だったが、もともとすぐにピットに戻る予定だったものの、開始から1分後、いきなり赤旗が提示された。ただこれはアクシデントではなく、最終コーナーにカモシカと思われる動物が侵入したためという珍しいもの。最終コーナーにオイルフラッグが出ていることを不思議がっていた阪口も、動物には「気づきませんでした」とすぐにコースサイドに逃げていったこともあり、走行は4分後に再開した。午前はなかなか思うようにタイムを上げられなかった阪口だが、予選に向けたセットアップ変更も功を奏した。か、ニュータイヤを履き4周目にアタックを展開すると、1分05秒641というタイムをマークする。午前よりもわずかにタイムを上げられたが、もちろんライバルたちも予選に向けてさらなる調整を進めていた。続々と他車がタイムアップしていくと阪口の順位は少しずつ下がり、最終的に9番手という結果に。Q1 突破は実現せず前戦オートポリスの再現とはならなかった。阪口は総合で、18番手という公式予選結果となった。

Q1突破は十分に可能なフィーリング

一方、午後2時20分からスタートした Q1 の B 組に出たのは坪井。午前は6番手で、前戦オートポリスほどではないが感触は悪くない。予選に向けて調整を行い、Q1 突破は十分に可能なフィーリングで坪井はアタックに入っていた。チェッカーまで残り1分ほどのタイミングで、ライバルたちと同様一気にタイムを上げていった坪井は、4周目に1分05秒176までタイムを縮めてみせた。坪井自身も「決まった」というアタックだったが、今回のB組は超僅差。0.1秒差で坪井の順位は7番手というものに。惜しくも Q2 進出を逃すことになってしまい、坪井、阪口ともに Q2 進出はならなかった。坪井の総合順位は 13 番手だ。最終的に P.MU/CERUMO・INGING は、坪井が中団グリッドから、阪口が後方グリッドからのレースを戦うことになった。とはいえず、このスポーツランド SUGO は追い抜きは難しくとも、一度アクシデントが起きればレース展開が大きく荒れることも多い。展開さえつかむことができれば、入賞はまだ可能だ。チームは6月19日(日)の決勝で追い上げを期すべく、しっかりと準備を整えていった。

6月19日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ  
**決勝** 6月18日(土)に行われたスーパーフォーミュラ第5戦の公式予選では、坪井翔は悪くないフィーリングを得ていたものの超僅差のなかで Q2 進出を果たすことができず、一方の阪口晴南はフリー走行での不調から調子を上げたものの、やはり僅差のなかで Q2 進出が叶わなかった。P.MU/CERUMO・INGING の2台はグリッド中団からの追い上げを目指し、6月19日(日)の決勝レースに向けてしっかりとセットアップを見直し、燃料を積んだ状態でのフィーリングを確認するべく、午前10時10分からのフリー走行に臨んだ。

決勝スタート早々のセーフティカー

この日のスポーツランド SUGO は昼すぎに雷雨の予報も出ていたが、迎えた午後2時30分の決勝レースを前に、スタート進行中に大粒の雨が舞った。コースはほんのりと濡れてしまうが、幸いすぐに雨は止み、ふたたび路面はドライへ。蒸し暑さが残るなか、決勝スタートのときを迎えた。気温 30 度 / 路面温度 43 度という厳しいコンディションだ。13番手からスタートした坪井はあまりスタートが良いものではなかった。ただ、1コーナーでは前方で集団が詰まり、1ポジションダウンでダメージは済んだのは幸いだった。また、阪口も同様にあまり良いスタートではなかったものの、順位はキープ。そんななか前方では7番手スタートだった #3 山下健太が接触しスピン。ランオフエリアに停止してしまい、レースはいきなりセーフティカーランとなった。

再セーフティカー 順位が変動

車両回収後、8周目にリスタートを迎えるが、直後の1コーナーで、今度は9番手だった #50 松下信治がクラッシュ。再度セーフティカー導入となる。この間に、タイヤ交換が可能な10周を終えることから、チームは坪井、阪口ともセーフティカー中にタイヤ交換を判断した。後から入った阪口は坪井のタイヤ交換を待つことになってしまい1台先行を許したが、ロス是最小限。15周目のリスタートとともに、坪井は15番手、阪口は17番手につけ前を追った。この間に7台がステイアウトしていたが、この集団がいつピットインするのかによっても順位は変動する。

坪井、手応えは悪くないものの

前戦は接触やペナルティもあった坪井は、これまで苦手意識があった SUGO でしっかりと感触を確かめるべくラップを重ねていくが、手ごたえは悪くないものの、集団のなかではなかなかペースを上げられない。午前中の不調から変更したセットアップが功を奏し、阪口も悪くない感触を得ていた。ただそんななか、坪井は23周目には最終コーナーから1コーナーまでが速い #15 笹原右京に先行を許し16番手へ。さらにレース終盤、ピット作業を遅らせた集団が2台に接近。阪口の背後を脅かしかかる。

阪口、マシントラブルか!?

阪口はペースが悪いわけではなかったが、34周目、ストレート上で左側のバーステアが振動によって外れてしまった。わずかにハンドリングが乱れるが、どの程度乱れるのかを判断している間に1台にかわされ、さらに後方からはフレッシュなタイヤを履く #36 ジュリアーノ・アレジが接近。45周目、1コーナーで並ばれた際、イン側を守っていた阪口だったが、スピンを喫し順位を落としてしまっ

た。これで阪口は14番手から19番手までドロップ。最後尾の19位でフィニッシュした。一方坪井はポイント圏内まで迫りながらも、11位でフィニッシュ。目標の完走は果たし手ごたえは得たものの、やや悔しさが残るレースとなった。

38 坪井翔	予選 13位	決勝 11位	39 阪口晴南	予選 18位	決勝 19位
--------	--------	--------	---------	--------	--------

@INTERVIEW

坪井 翔 38号車 ドライバー Sho TSUBOI #38

荒れるレースになると思っていた



**S**UGO は荒れるレースになると思っていました。しかし、前戦オートポリスでは接触もしてしまいペナルティも受けていたので、今回はとにかく安全に、さらに SUGO のレースペースが速かったことが一度もなかったことで、改善するためにしっかりと調子を見たかったのでしっかり完走を目指していました。ただ結果的に入賞に届かなかったのは悔しいです。ライバルがオーバーテイクシステムを使うとすごく速く、順位を落とすことになってしまいました。集団のなかでペースはなかなか上げられませんでした。まわりがいなければペースは悪くなかった印象がありました。この手ごたえを得られたのは自分のなかでは大きいので、そのポジティブな点を次戦に繋げたいです。

戦略としては良かった

阪口 晴南 39号車 ドライバー



**S**タートはあまり良くなく、かなり課題だと感じましたね。抜けないコースなのでスタートは改善しなければいけません。その後のレースは序盤にセーフティカーも入りましたが、僕たちがダブルストップで時間もかかってしまいました。ただ戦略としては良かったと思います。ペースについては、昨日から持ち寄ったアイデアが功を奏し、まわりに比べても遜色ないものだったと思います。途中バーステアが飛んでしまった影響もあり、フレッシュなタイヤのライバルと競り合うなかでスピンも喫してしまい、そこは残念でした。そもそも予選の内容がレースに繋がっているの、次戦に向けて予選を重視して改善するべく、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

難しいレース展開

立川 祐路

前 Yuji TACHIKAWA チーム監督

日の予選の結果スタート位置が中団よりうしろだったので、坪井選手も阪口選手も、どちらにとってもなかなか難しいレース展開になってしまいましたね。序盤にセーフティカーが出たので、2台ともにピット作業を行う作戦を採りましたが、コース上で抜くことも難しく、2台ともに順位を大きく上げられないままレースを終えることになってしまいました。次戦はホームコースでもある富士スピードウェイでのレースとなりますが、2台が上位を走れるようにしっかりと準備をしていきたいと思っています。

Fuji Speedway Today's Race Rd.6 7.16 SAT/17 SUN

**GET!!** 応援グッズ付き 観戦券発売中!! チームグッズと観戦券がセットになって登場!! セルモ・インギングをGETして応援しよう!!